

芥川フォトギャラリー

令和2年10月から令和3年1月にかけて、あくあびあ芥川1階展示コーナーで、市民のみなさんから募集した写真展を行いました。四季を通じた芥川の風景、人や生き物の憩いの場となっている様子、これからも残しておきたい芥川の景色などの写真が集まり展示しました。その中からいくつかを紙面でご紹介します。



～令和3年度 事業のお知らせ～

令和2年度は新型コロナウイルスの影響で多くの事業が中止となり、例年通りの活動ができませんでした。

令和3年度もまだ感染が収束せず、不確定な部分が多いですが、可能な限り活動を行っていかうと思っていますので、ぜひご参加ください。

活動予定については随時ブログ等でお知らせします。(アクセス先は下記参照)

アユの遡上調査に参加しませんか？

芥川には初夏にたくさんのアユが遡上してきます。芥川倶楽部では毎年アユの遡上数を調査し、水質など環境変化の指標としています。今年の調査は下記の予定です。皆さんのご参加をお待ちしています。



時期	2021年4月下旬～6月末日の毎日 9時～15時 ※ご希望の日にご参加ください。
場所	芥川1号井堰 (芝生町二丁目地先、芥川大橋上流側)
方法	魚道を通過するアユを目視でカウントします。 ※当方でボランティア保険に加入します。
申込先	NPO法人芥川倶楽部 E-mail: akutagawa0726@yahoo.co.jp

芥川倶楽部では、川づくりや各種イベントに参加してくれる方を募集しています。イベント等の情報は下記の芥川倶楽部ブログにて、紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

ホームページ: <http://akutagawaclub.web.fc2.com/> ブログ: <http://akutariv.blog85.fc2.com/>
E-mail: akutagawa0726@yahoo.co.jp

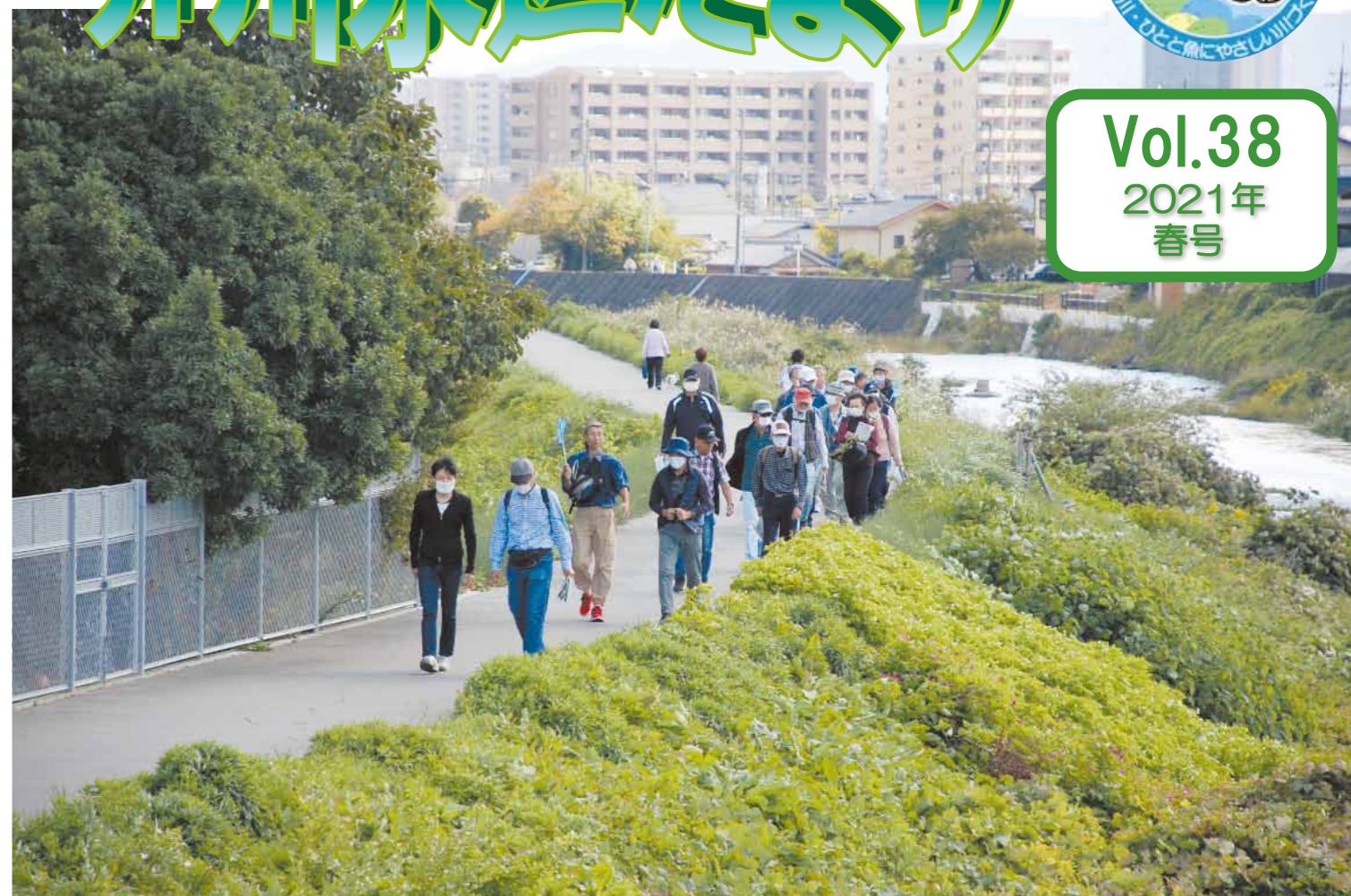
～～～芥川はみんなの財産です。みんなで守り、育てていきましょう。～～～

あなたと自然が触れ合える芥川の情報誌

芥川水辺だより



Vol.38
2021年
春号



芥川の魅力再発見!! ウォーキングを実施しました

10月24日

晴天に恵まれた10月24日、芥川の魅力を再発見することを目的に、JR高槻駅北口から芥川橋を経て芥川沿いに塚脇橋まで歩きました。参加者はパナソニック松愛会、高槻市、芥川倶楽部、たかつき環境市民会議の23名でした。

駅から河川敷までの西国街道には一里塚と洪水被害を防ぐための「角落とし」が残されています。芥川橋を渡り、桜堤公園では芥川の水位を観測している水位計があり、高槻市の災害警報はこの水位データをもとに発信されます。門前橋下流のデルタフリー魚みちを見学しました。

門前橋から大蔵司橋の間には、2019年に完成した3か所の魚みちがあり、説明を聞きながらそれぞれの特徴の理解を深めました。阿久刀神社(芥川の地名の由来になっている)の周辺では年間を

通じて、多くの水鳥や魚が見られます。清福寺落差工魚みちには渡り石が設置されています。ここを渡ると対岸の遊歩道にでることができます。また遊歩道からは土汽車の橋脚跡も見られます。

大蔵司橋から上流は令和2年1月に完成した右岸の遊歩道を歩き、あくあびあ芥川で一休み。例年だとこの辺りでアユの泳ぐ姿が見られますが、当日はあいにく増水のためアユは見られませんでした。

芥川緑地の「かわまちづくり」のパネルの前で、“石の魚みち”の特徴や工法そして遡上調査結果などについて説明を受けました。このあと芥川の流れと、魚みちを見ながら塚脇橋まで歩きました。

参加者は、それぞれの立場で芥川の魅力を見つけられたことと思います。これらの芥川魅力をまとめ、広く発信していけたらと考えています。

編集 芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワーク～愛称: 芥川倶楽部～

事務局: NPO法人芥川倶楽部

発行 令和3年(2021年)3月 高槻市 都市創造部 下水河川企画課 TEL 072(674)7432

●芥川・ひとと魚にやさしい川づくりネットワークは河川協働団体(国(近畿地方整備局)第2号)に認定されています●

行政と協働で 石の魚みちの補修を行いました

2019年に完成した川島井堰下流落差工の『石の魚みち』ですが、2020年6月と7月の大雨による増水で一部の石が脱落してしまいました。このため大阪府茨木土木事務所、高槻市、芥川倶楽部、あくあびあ芥川が協働して魚みちの補修を行いました。作業は2日にわたって行いました。

初日の11月16日には、水の流入を防ぐため、減勢プールの入り口に仕切り板を設置し、どこにどう置けば魚がのぼれるか考えながら石を仮置きしました。石の大きさや配置によって魚がのぼれるような小プールを形成するように仮置きし、翌日の作業のためにペンキでマーキングしておきました。

翌17日は快晴で、水温もそれほど低くなく絶好の作業日和でした。作業はまず初めに脱落部基盤のコケを除去し、接合面の付着をよくするためにチップパーで表面にキズを付けました。次に30分～60分で固まるセメント、現地の水と砂利を少し混ぜてコンクリートを作り、最後にコンクリートで石を基盤に固定していきました。

作業に必要な発電機、チップパー、電動ノコ、早強セメント、混練用バットなどの機器や資材は茨木土木事務所が用意し、工事の作業はみんなで行いました。行政と市民との協働作業ができたことに加え、石の魚みちの構造や、どのような流れが魚にとって望ましいのか、自ら経験することによって感覚的に理解できたことに価値があると思います。貴重な経験ができました。

2日後仕切り板を撤去して水を流し、補修した部分の水の流れを確認しました。流れは良好で、今年もまた多くの魚種の遡上が期待できそうです。

11月16、17日



今後もこのような作業をすることで魚みちに愛着を持ち、維持管理に関わっていくことができればいいと思います。

11月、12月

ミスヒマワリ駆除活動

10月に津之江公園池の池周辺9か所、特に下流側水辺でミスヒマワリの大繁殖が見つかりました。芥川右岸砂州では昨年駆除した場所では繁殖を抑えたのですが、別の場所で新たに繁殖が見つかり、さらに女瀬川河口域では再繁殖を確認しました。

このため、11月7日と12月2日に津之江公園池の駆除活動を、11月27日に芥川と女瀬川の駆除作業を行いました。津之江池の駆除活動では、たかつき環境市民会議、芥川倶楽部、津之江公園を活かす会、摂南大学エコシビル部、高槻市から延べ31名の参加がありました。作業に先立ち、津之江公園を活かす会のメンバーが、事前に池周辺のブッシュを刈り取り、搬出用の通路を確保してくれたおかげで効率上がり作業時間短縮になりました。

駆除量は3日間合わせて約740kgになりました。



2020年アユ仔魚調査結果

今年は、数は多くないものの夏場から秋にかけて塚脇橋の下流から大蔵司橋までの間で遡上アユが確認され、10月初めにアユの産卵行動の目撃情報もあり、例年より早く10月27日に大蔵司橋地点と次郎四郎橋地点でスタートしました。

ところが、10/27、10/31、11/3、11/7、11/10と仔魚の姿を見ることが出来ず、顕微鏡による確認でも両地点で0匹でした。そこで、産卵のためにアユが下ったものと判断して城西橋上流の流路が狭まっているところに調査地点を移して11/14、11/17、11/21で調査しましたが、やはり確認できませんでした。もう少し下ったところにある平瀬の下流は土砂搬出工事で均されて流れが広く遅いためプランクトンネットによる調査には不向きですが、11/24～12/15の間9日のサンプリングで113匹を確認できました。



下流の次郎四郎橋地点では、今年は14匹しか捕れていません。次郎四郎橋直上流での産卵が少なく、また流れが遅いために城西橋上流の仔魚が次郎四郎橋まで流れ下れないのが原因だと思われます。

国土交通省 「全国多自然川づくり会議」で 「芥川の石の魚みち」を発表

近畿ブロックの多自然川づくり会議で大阪府茨木土木事務所の竹島主査が『こだわりの技！芥川における石の魚道の整備』のタイトルで発表し、優秀賞に選出されました。

「全国多自然川づくり会議」は新型コロナの影響で、書類審査となりました。石の魚みち設置の経緯や設計上のこだわり事項、工事の手順、遡上効果などについて説明されました。ポスターでは魚みちの構造を分かりやすく説明しています。

こうした事例発表を通じて、石の魚みちの取り組みや芥川の川づくりについて全国のみなさんに広く知っていただけるのは非常に喜ばしいことです。



唐崎ワンドの下見調査を行いました

11月7日

毎年唐崎ワンドで市民対象の観察会を実施しており、次年度にむけてこれまで使ってこなかった一番下流側の7号、8号、9号のワンドを下見しました。

7号ワンドは、水面がほとんどなく草に覆われている状態で、足を踏み入ると水が上がって来ましたが、約10cm程度で、これまで同様ヘドロは多いと思われます。8号ワンドは、水面にはヒシやオオフサモなどが繁茂していた形跡があります。ヘドロの深さは30cm程度、水深は60cm程度と思われました。9号ワンドは、一番遠いワンドでしたが、開放面も一番広いワンドでした。ヘドロ層もありますが、中央部は水深1m以上の箇所もあり、生きものはかなり多かったです。

8号ワンドと9号ワンドの間には比較的広い平らなスペースもあり、テントや受付のテーブルも設置できます。8号ワンド、9号ワンドともすぐに横が本流で、使用後の汚れた網や胴長などはすぐに洗えます。

調査参加者で、アクセス、ヘドロ深さ、貝類種類、魚類、安全性の5項目について評価点をつけた結果、来年のワンド観察会は9号ワンドがよいとの結論になりました。ただし、開催前に再度調査や安全対策を十分に行う必要があります。

